

外国語教育、環境教育を活用した「持続可能なまちづくり」創造事業

事業の概要

本学と浜通り市町村との間で継続的な関係を構築し、これまで大学が培ってきた「外国語教育」「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、**本学における SDGs 達成の担い手育成**と**浜通り地域の復興・活性化に貢献する人材育成**を目的とする。

(1) **SDGs** および**パリ協定**の目標達成に向けて、**脱炭素社会**の実現、**再生可能エネルギー100%**を目指し、**サーキュラーエコノミー(循環経済)**および**地域循環共生圏**のモデル地域として、田村市をはじめとして、浜通り市町村において取り組む。

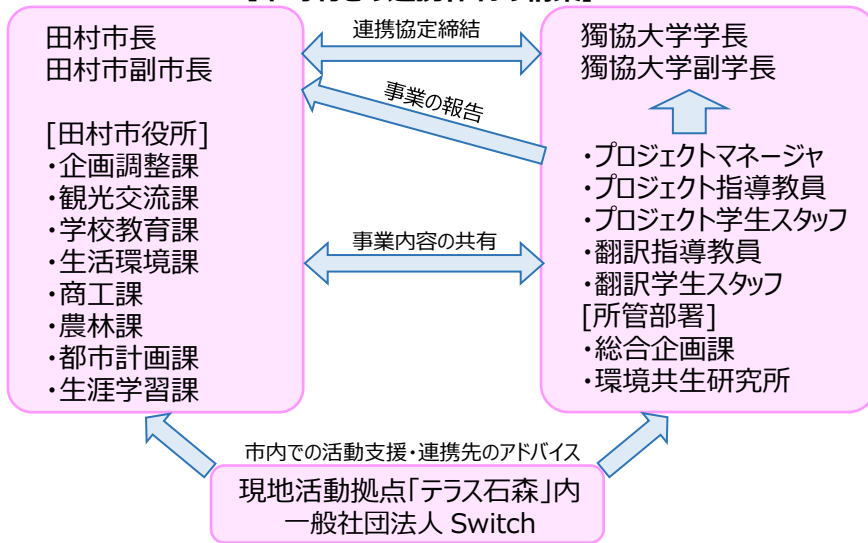
➡ **環境に配慮した「持続可能なまちづくり」を具現化**した新たなまちづくりを目指し、新しい来るべき未来の私たちの生活の在り方や持続可能な暮らしについて考えていく。→ **次世代につなげる。**

(2) 本学の強みである**外国語教育**を活用して、自然環境や観光資源をはじめ、環境回復や本事業進捗の状況を**多言語化して発信**する。→ 本学の学生が当事者意識を醸成。地域住民も**世界とつながる**ことができることを認識

(3) 本学の教職員や学生が現地に入って**フィールドワーク**を行うことで、地域の現状を知り、地域資源を把握し、問題点に気づいて課題に落とし込む→ 福島の震災復興に貢献できることを考え、さらには日本の地方が抱える問題を考える。

➡ **若者が魅力のある浜通り、福島県、そして日本の将来像を作っていくことができるようにする。**

【市町村との連携体制の構築】



【5年間の人材育成目標】

持続可能な社会を実現するために**地域社会や国際社会において活躍できる人材を育てる。**

- 具体的には、本学の学生、および地域の子ども・若者について、次のような能力を育成
 - 能動的に情報を収集し、整理し、問題を発見し、課題を設定できる能力
 - バックキャストイング(backcasting)で考える能力
 - 課題解決に向けて、主体的に行動し、地域の関係者を巻き込んで協働・協創していく能力
 - 地域に対する愛着、当事者意識

今年度(2022年度)までの活動内容と課題

➢ 多言語化プロジェクトと地域課題・地域資源の発見活動

- ・田村市の事前調査と現地調査→ 地域資源と地域課題を把握→ 実態調査報告書の作成(継続)
- ・田村市観光の情報サイトと周遊観光パンフレットを多言語化(英語、中国語、韓国語、タイ語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、トルコ語、ロシア語等に翻訳言語を拡大)(継続)
- ・イラスト・マップの制作に向けた市内全域調査の実施、キーパーソンへのヒアリング
- ・地域資源として廃校舎等の利活用のための調査(継続)

➢ 田村市の小中学校における SDGs 教育への協力

- ・市内中学生に対する **Fukushima Future(F2)サミット** 事前研究会(2回)への協力(継続)
- ・環境教育、SDGs 教育への協力(継続)

➢ 田村市の省エネルギー・再生可能エネルギー推進、地球温暖化防止に向けた取り組みへの協力

- ・『第4期田村市地球温暖化対策実行計画【区域施策編・事務事業編】』のパブコメに協力
- 本事業広報のために本学のホームページ改修



2021年12月14日、本学との連携協定締結式に来学された白石高司田村市長と記念撮影



ホップジャパンの本間社長に SDGs への取り組みを聞く学生スタッフ



F2 サミット事前研究会②で市内中学生のファシリテーターを務める学生スタッフ

3年目(2023年度)の事業内容及び取組の方向性

➢ 多言語化プロジェクトと地域課題・地域資源の発見活動の継続

- ・田村市観光の情報サイトと周遊観光パンフレットを多言語化(継続)
- ・田村市実態調査報告書のアップデート(継続)
- ・地域の子ども・若者とイラスト・マップの制作(継続)
- ・『**地元学(田村学)**』の教育プログラムの構築(継続)
- ・**廃校舎等のリノベーションによる有効活用(継続)**

➢ 田村市の環境教育研究プログラム構築と「持続可能なまちづくり計画」の策定

- ・環境教育研究プログラム構築
- ・脱炭素社会、再生可能エネルギー100%の実現を目指す「**持続可能なまちづくり計画**」策定
- ・**サーキュラーエコノミー、ゼロ・ウェイスト、地域循環共生圏のモデル地域**を目指す。

➢ 田村市の産業振興に関する協力

- ・農業・林業・畜産業の実態調査の実施